ニューヨーク補習授業校だより

架け橋

令和６年（2024年）８月23日　　第13号　　校長　小島　昇

夏休みを終えて授業再開です！

暑さの峠は越えたのでしょうか。朝夕の風に秋の気配を感じられるようになりました。青々としていた木々の葉は、目を凝らして見ると秋色に変わり始めています。

さて、現地校よりも一足早く、ニューヨーク補習授業校では24日から授業再開です。アメリカ国内で、一時帰国の日本で、様々な経験をした子どもたちは体も心も成長した姿を見せてくれることでしょう。



Ｗ校では運動会、のみの市、ＬＩ校では秋祭り、スピーチ大会、音読発表会と行事が続いていきます。もちろん、日常の学習も大事。子どもたちが「がんばることで喜びを感じられる」ように、夏休み明けも保護者と教職員がそれぞれの立場で協働していきたいと思います。

「架け橋」



本年度の補習校だよりは、タイトルを「架け橋」としています。「かけはし」は掛け橋や懸け橋などとも書きます。「架け橋」と表記する場合、一般的な意味での橋、実際の架橋を表し、抽象的・比喩的用法では「懸け橋」と区別して書くようです。しかし実際の使用では、比喩的な「かけはし」を「架け橋」と書く人が４分の３、「懸け橋」とする人が６分の１という調査結果もあり、最近では比喩的な用法でも「架け橋」を使うようになってきているそうです。このように新聞社が原則とする用法や、調査結果などもありますが、タイトルを「架け橋」と決定するのに最も影響力があったのは、ゆずの曲「栄光の架橋」だったかもしれません…。

前置きばかりが長くなりましたが、４月に補習校だよりのタイトルを決めるにあたり、補習校で学ぶ子どもたちには比喩的用法での「かけはし」になってほしいという願いを込めました。「はしわたし。なかだち。」といった意味での「かけはし」です。２つの対象があって、それらの「はしわたし。なかだち。」ということになります。日本とアメリカをつなぐ架け橋。もっとグローバルに世界の国々の架け橋。現在と未来の架け橋。人と人を結ぶ架け橋。…



皆さんは、何と何との架け橋をイメージされるでしょうか。子どもたちが「栄光の架橋」を目指して、また今日から努力を積み重ねて進んでいくことを願っています。